

製品名: NOS2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14803**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 131kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | NOS2 |
| 別名 | NOS2; NOS2A; Nitric oxide synthase; inducible; Hepatocyte NOS; HEP-NOS; Inducible NO synthase; Inducible NOS; iNOS; NOS type II; Peptidyl-cysteine S-nitrosylase NOS2 |
| 遺伝子 ID | 4843.0 |
| SwissProt ID | P35228 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト iNOS 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 117-166 |

背景

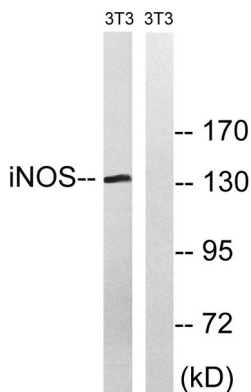
一酸化窒素は、神経伝達、抗菌作用、抗腫瘍作用など、様々なプロセスにおいて生物学的メディエーターとして作用する反応性フ

リーラジカルです。この遺伝子は、肝臓で発現し、リポ多糖と特定のサイトカインの組み合わせによって誘導される一酸化窒素合成酵素をコードしています。3つの関連する擬似遺伝子が、17番染色体のスミス・マゲニス症候群領域内に位置しています。[RefSeq提供、2008年7月],触媒活性: L-アルギニン + n NADPH + n H(+) + m O(2) = シトルリン + 一酸化窒素 + n NADP(+),補因子: 1つのFADと結合します。補因子: 1つのFMNと結合します。補因子: ヘム基,補因子: テトラヒドロbiopterin (BH4)。酵素の二量体形態を安定化させる可能性があります。酵素調節: カルシウム/カルモジュリンによって調節されます。アスピリンはこの酵素の発現と機能を阻害し、翻訳・翻訳後修飾レベルおよび触媒活性に直接影響を及ぼす可能性がある。機能: 全身で多様な機能を持つメッセンジャー分子である一酸化窒素 (NO) を産生する。マクロファージにおいて、NOは殺腫瘍作用および殺菌作用を媒介する。誘導: エンドトキシンおよびサイトカインによる。オンライン情報: 一酸化窒素合成酵素エントリ、類似性: NOSファミリーに属する。類似性: FAD結合FR型ドメインを1つ含む。類似性: フラボドキシ様ドメインを1つ含む。サブユニット: ホモ二量体。SLC9A3R1に結合する。組織特異性: 肝臓、網膜、骨細胞、肺の気道上皮細胞に発現する。血小板には発現しない。

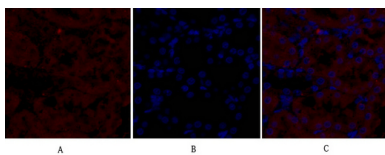
研究分野

アルギニンおよびプロリン代謝;カルシウム;がんにおける経路;小細胞肺がん;

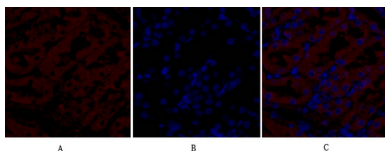
画像データ



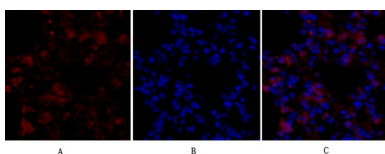
iNOS抗体を用いた NIH/3T3細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



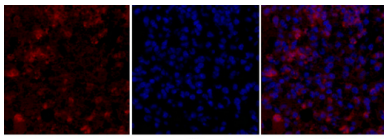
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, NOS2ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



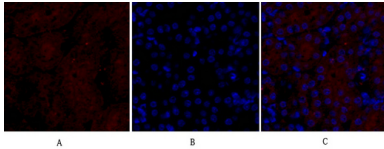
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, NOS2ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



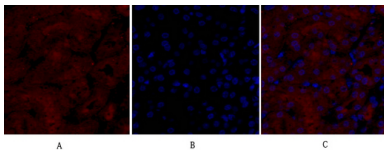
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, NOS2ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



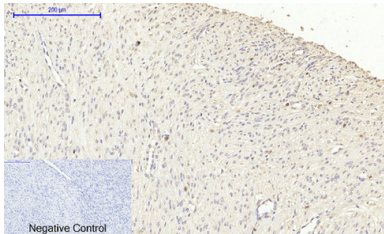
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, NOS2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



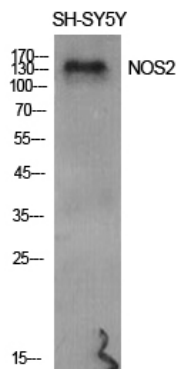
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, NOS2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, NOS2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. NOS2 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1: 500 に希釈した NOS2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析